

バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等, バイオテロ病原体への検査対応,
公衆衛生との関連のあり方に関する研究
分担報告書

バイオテロ対応ホームページのアップデートとバイオテロ対策支援方法の開発

所属 東京大学医科学研究所附属病院
感染免疫内科・助教
研究分担者 安達 英輔

研究要旨:2020 年度は運用中のバイオテロ対応ホームページの中で中等呼吸器症候群(MERS)の項目を作成した。また, 治療が困難で世界的な流行が懸念されている, 多剤耐性結核菌についても追加の改定を行った。その他, 2020 年 1~3 月に大幅なレイアウト変更を行い, アクセス数の推移をみた。

A. 研究目的

昨今の国際情勢を鑑みるとテロリズムへの懸念は弱まることはなく, 生物製剤を用いたバイオテロに対しても十分な対応が必要である。特に 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控えた日本では対策強化が不可欠である。本研究では, バイオテロ対応ホームページを通じて, 使用される可能性のある病原体の特徴や発生時の応急対応などを広く情報提供し, 有事の際の混乱を最小限に留めること目的とする。さらに, ホームページ以外の方法でも効果的な支援方法を検討する。

B. 研究方法

バイオテロホームページの作成と最新の情報への更新を行う。

【倫理面への配慮】

公表された情報のみを研究材料とするため, 倫理面への特別な配慮は必要ない。

C. 研究結果

今年度は中東呼吸器症候群(MERS)について, 項目を設定した。多剤耐性結核菌について改定を行う他, その他, デング熱など, 輸入感染症として, 日常的に遭遇しうる疾患についても適宜改定している。2020 年 1~3 月に大幅なレイアウト変更を行った。これらの結果, 前年度から大幅なアクセス数の増加があつ

D. 考察

ホームページ更新のアクセス数については昨年度よりさらに増加した。数年前から増加傾向であるが,

2020 年は特に COVID-19 の影響から, 更にサクセス数の増加が認められたと考えられる。

E. 結論

2020 年度ホームページアクセス数は増加傾向にあり, 情報提供源として一定の役割を果たしていることが確認できた。バイオテロへの認識向上に効果的である可能性が示唆された。COVID-19 の流行から SARS など過去のコロナウイルス感染症への情報提供も求められていることなどが伺われた。2021 年には東京オリンピックが開催されるなどバイオテロ対策の重要性は今後も増大していくことが予想される。バイオテロに使用される病原体や各疾患の特徴などを閲覧できるホームページの継続的な改訂は今後とも継続していく必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Yamamoto S, Saito M, Nagai E, Toriuchi K, Nagai H, Yotsuyanagi, Nakagama Y, Kido Y, Adachi E. Antibody response to SARS-CoV-2 in people living with HIV. J Microbiol Immunol Infect. 2020 Oct 2:S1684-1182(20)30239-5
- 2) Yamamoto S, Saito M, Nagai E, Toriuchi K, Nagai H, Yotsuyanagi, Nakagama Y, Kido Y, Adachi E. Seroconversion against

SARS-CoV-2 occurred after the recovery in patients with COVID-19. J. Med Virol 2021 Feb;93(2):692-694

2. 学会発表

- 1) 永井博之, 山本真也, 池内和彦, 林阿英, 齋藤真, 安達英輔, 保科斉生, 古賀道子, 堤武也, 四柳宏. 流行期に遭遇した HIV 感染合併の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の症例. 第34回日本エイズ学会学術集会, web(2020.11)

H.知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし

图表

